

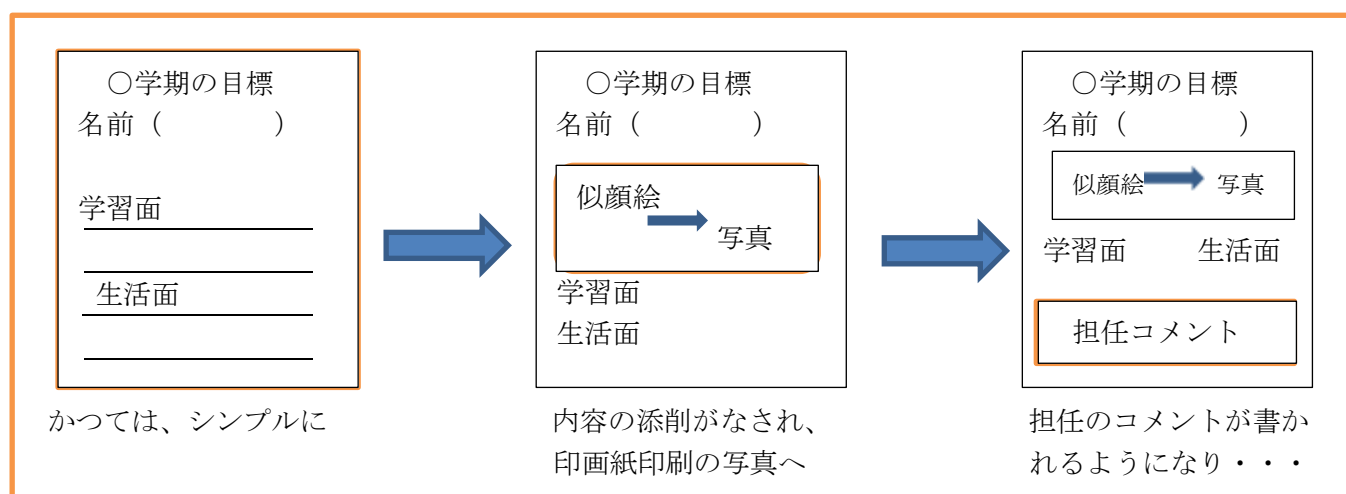
# こんにちは鹿教組です



## どこまでやればいい？ 業務削減の現実！

私たちが学級づくりや校務分掌として実施している一つ一つの業務、個々人が実施している業務もその在り方を見直すことが重要です。「子どものために」と考えて実施していたことが、いつの間にか「過剰なサービス」になってはいないでしょうか。

教室の壁面に掲示してある、子どもの「〇学期の目標」を例にとると



シンプルにできていたことが、いつの間にか華美に・・・どこまでするべきか議論が必要です。また、そもそも「これって必要？」という意見も聞こえてきそうです。

## 教育課程編成期のとりくみで働き方改革を！

行事や日課表の見直しには、聖域を設けずに議論するという教職員集団や管理職の柔軟な発想が必要です。県内でもすでに、家庭訪問の廃止、掃除は週2～3回、朝読書の廃止などに踏み切った学校があります。聖域を設けていては、業務改善の議論自体が難しくなります。学校で行事削減の議論を始めると、次のようなことが起こることがあります。

A職員「〇〇は、なくてもいいと思います。」

B職員「〇〇は、必要だと思います。それよりも△△をなくすべきだと思います。」

C職員「△△は、必要だと思います。〇〇、△△でなくて□□をなくしたら・・・」

全職員「・・・・・・・・」

そして、何も削減されない・・・これまでもこうした議論は、多くの学校であったのではないのでしょうか。「今、やっている行事等は、すべて教育的意義があるもので、優先順位などつけられない」のですが、あなたの学校でやっていない行事で、他校でやっている教育的に意義のある行事は山ほどあります。すでに、数ある教育的意義のある行事の中から優先順位をつけて取捨選択しているのです。今が、忙しいのであれば選択し過ぎているということです。行事に優先順位をつけて、削減していくことは当然のことかもしれません。

文科省も県教委も、『子どものためであればどんな長時間勤務も良しとする』という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものですが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは『子どものため』にはなりません』とっています。

文科省は学校の先生の勤務実態を改善するために、中教審に「学校における働き方改革特別部会」を設置して議論を重ね、2019年3月、全国の市町村教育委員会等に通知を出しました。

その中で、「自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うこと」を働き方改革の目標にしました。

そして、学校が抱えている業務を大きく見直すことを具体的に示しました。授業準備、交通安全指導、会議や研修、部活動等々…先生が実施している日常の仕事は多岐にわたっています。その一つ一つには意義があります。どれも大事でしょうが、変えていかなければなりません。



#### <県内のとりくみ例>

- 通知表の所見らんは「手書き」からパソコンに。  
←「手書き」の味わいを求める声もありましたが・・・
- 校内水泳大会は通常の授業参観に。水泳記録会は廃止に。  
→水泳の目標は「速く泳ぐ」ことではなく、「続けて長く泳ぐこと」になっています。
- 学習発表会など準備・練習に時間のかかる行事の準備・練習時間の縮小・廃止

働きやすい職場づくりのために、あなたの力が必要です！  
一緒にやりましょう！あなたも鹿教組に

加 入 届			
私は鹿児島県教職員組合に加入します。			
20 年 月 日			
学校名	学 校	職 名	
な 名 ま え 前			印
生年月日	年 月 日 (満 歳)	性別	男 ・ 女
住 所			

加入に立ち会った組合員

